



内閣官房「昭和100年」関連施策

伝えたい・学びたい・活かしたい みんなで語る 昭和「100年」

2026
日時 **8.4** [TUE]
18:00
20:00

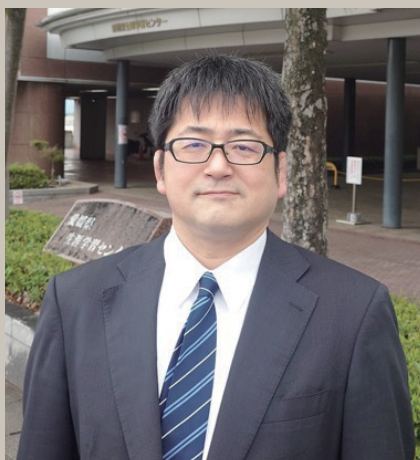
愛媛大学E.U. Regional Commons
(ひめテラス) 1階
開催方法 NP地域交流ルーム(地域交流スクエア)
対面40名(先着順)／WEB同時配信(ZOOM)

参加費 **無料**

令和8年(2026年)は、昭和元年から100年を迎える節目の年です。今回のまちなか大学では、昭和に起きた愛媛県の出来事、地域に残る記憶や暮らし、文化、産業、風景などを手がかりに、「昭和」という時代を多角的に見つめ直します。戦争と復興、高度経済成長、地域社会の変化など、様々な資料をもとに、激動の時代を生きた人々の経験や想いに耳を傾けながら、昭和を知る世代と若い世代がともに昭和の記憶や出来事を語り合い、その価値を次世代へどのようにつないでいくかを考える

機会とします。登壇者として、愛媛新聞社にてデジタル特集「えひめ昭和100年」を担当した加藤太啓氏、愛媛県生涯学習センターの事業「ふるさと愛媛学」にて昭和の記録に取り組んできた日野琢氏、昭和時代の古写真をもとに高齢者の記憶・経験を記録するプロジェクトに取り組む井口地域共創研究センター長、大学生3名が講演・発表を行い、それぞれの立場から「昭和」の意味や価値についてディスカッションを行います。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

登壇者



日野 琢 Taku Hino

愛媛県観光スポーツ文化局
まなび推進課研究科・科長

「ふるさと愛媛学」担当。昭和・平成の生活や産業・文化とその変化等について、住民からの聞き取りを中心に市町とも連携・協働して地域調査を行い、報告書公開や出前授業等を実施。



加藤 太啓 Taikei Kato

愛媛新聞社東京支社
次長・編集部長

愛媛大学大学院法学研究科修了。1999年、愛媛新聞社に入社し、編集や販売、総務の仕事に従事。2023年からデジタル報道部長を務め、「えひめ昭和100年」などを担当した。26年4月から現職。



井口 梓 Azusa Iguchi

愛媛大学地域共創研究センター
センター長(社会共創学部・教授)

愛媛県内子町にて、高齢者の生活文化に関する聞き書き・記録、古写真の収集活動に取り組む。近年では、その記録や古写真をもとに地域アート活動や観光まちづくりを展開。



申し込みは
こちら

申し込み方法

[2026年8月3日〆切] 本チラシの二次元バーコード、又は愛媛大学地域共創研究センターHP (<https://rcrc.cri.ehime-u.ac.jp/>) の「まちなか大学vol.2」の告知ページよりお申込みください。

問い合わせ

E-mail: rcrc_cri@stu.ehime-u.ac.jp (地域共創研究センター)
Tel: 089-927-8145 (地域協働支援部地域協働課)



ゲストスピーカー

田山晴翔・平井完樹・定村珂音
(愛媛大学社会共創学部3年生)

Facebook

